

海神会 関東支部便り (No.16)

平成 29 年度 定時総会のご案内

初夏の候、益々ご健勝の段お慶び申し上げます。平素は格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、標題の平成 29 年度定時総会を下記に開催しますので、万障お繰り合わせの上、ご出席下さいます様をお願いします。

記

- 日時 7 月 3 日（火）17：00～定時総会 18：00～懇親会
- 会場 神戸大学東京六甲クラブ（Tel：03-3211-2916）
- 総会予定議題
1. 海神会本部総会[6/9(土) 於深江]の報告
 2. 平成 29 年度事業並びに会計報告・会計監査報告
 3. 平成 30 年度事業計画並びに会計予算
 4. 関東支部ゴルフコンペについて
 5. 神戸大学学友会（東京支部）・東京六甲クラブ関係

引き続いて同じ会場で懇親会(会費 4,000 円)を行います。

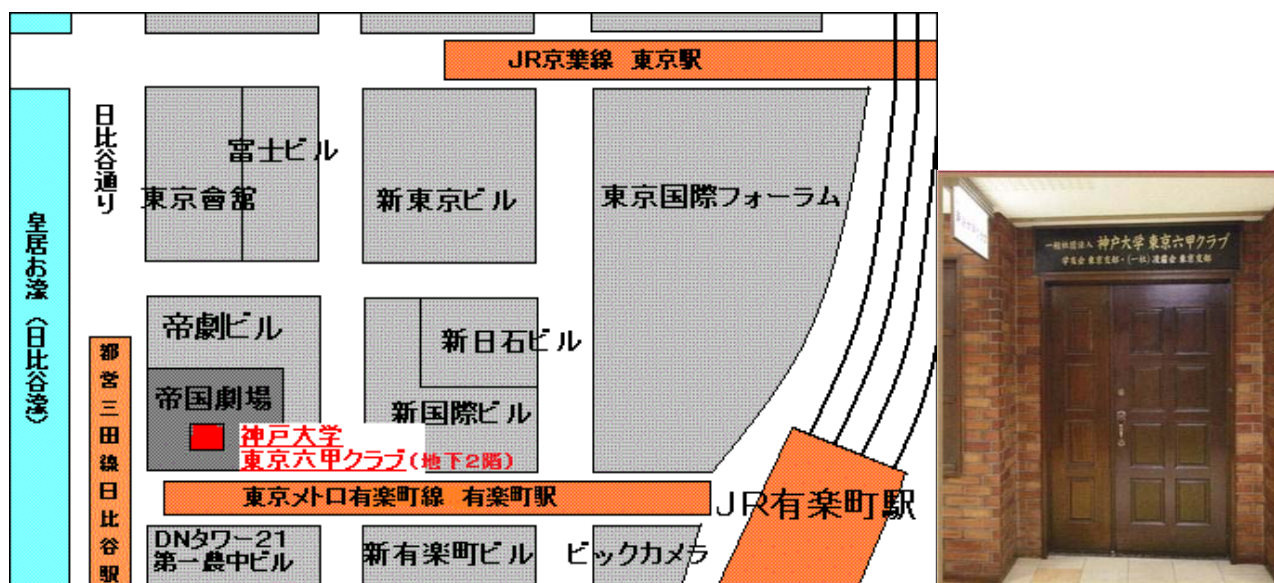
◎ 出欠の連絡を 同封のハガキに切手を貼付して投函、or E-mail にて 6 月 15 日迄にお願いします。E-mail：kaijinkaikantoh@yahoo.co.jp です。宜しくお願いします。

出欠連絡ハガキには、会員の近況連絡用として「My 近況」欄を設けています。
お寄せ頂いたものをまとめて次の“海神会関東支部便り No.17”に掲載します。「どんな内容でも結構ですから、是非ご記入し、お寄せ下さいますようお願いいたします。」

目次

定時総会の案内	……1
総会予定議題 1. 海神会本部総会(6/9 於 深江)の報告(定時総会でのみ)	
2. 平成 29 年度活動報告・決算	……2
3. 平成 30 年度活動計画案・予算案	……5
4. 関東支部ゴルフコンペについて	……6
5. 神戸大学学友会東京支部・東京六甲クラブ関係	……6
会員往来・会員の広場「Bridge」	……8
会員の窓 20,170TEU 積みコンテナ船「MOL TRIUMPH」乗船記	……10
 深江の鐘  海事科学部ホームページから	……15
事務局からのお知らせとお願い	……16

◎神戸大学東京六甲クラブについて（千代田区丸の内 3-1-1 帝劇ビル B2）



最寄り駅

- ◇東京メトロ有楽町線 有楽町駅 B3 出口直結
- ◇都営三田線 日比谷駅 B3 出口 直結
- ◇山手線 有楽町駅 国際フォーラム口 徒歩 3 分

2. 平成 29 年度事業報告・決算

2.1 平成 28 年度 関東支部定時総会（平成 29 年 7 月 7 日）

支部会員 30 名の出席のもとに議案に沿って順調に審議して戴き次の議案全て承認をされました。尚、詳細は、関東支部便り No.15 に報告掲載されていますので、参照願います。

- 2.1.1 本部総会報告
- 2.1.2 平成 28 年度活動報告
- 2.1.3 会則改定
- 2.1.4 役員の改選
- 2.1.5 平成 28 年度決算の承認
- 2.1.6 平成 29 年度活動予定
- 2.1.7 平成 29 年度予算案の承認

2.2 平成 29 年度活動報告

- 2.2.1 総会の案内状（約 1,050 通）の袋詰めを兼ねた幹事会（5 月 25 日）の開催
- 2.2.2 海神会本部 理事会・総会（5 月 27 日）に出席：森本支部長、田中事務局長
- 2.2.3 理事会・定時総会・懇親会の開催（7 月 7 日）：内田学部長、古莊教授も出席
- 2.2.4 海神会関東支部ゴルフコンペの実施（12 月 1 日；第 1 回、3 月 30 日；第 2 回）
- 2.2.5 海洋会に協力：海洋の発送、万歩の集い、明治丸等のボランティア etc.
- 2.2.6 神戸大学東京六甲クラブ行事に協力：3 月 1 日の木曜会で道浦支部長が講演
- 2.2.7 関東支部便り No.14「総会の案内」、No.15「My 近況を掲載」の発行、
- 2.2.8 関東支部メール便の継続（約 1 回/月）
- 2.2.9 海神会本部 評議会（10 月 28 日）に出席：森本顧問、道浦支部長、田中事務局長、平塚理事
- 2.2.10 事務局業務

・会員名簿の整理、支部会計、関東支部便りの発行、本部との連携、議案書の作成など

2.3 平成 29 年度決算

【累計収支差額＝次期繰り越し金＋終身会費繰越金】

前年度末 1,863,991 円（1,086,991＋777,00）に比べ、今年度末は 1,935,053 円

（1,047,053＋888,000）と約 7 万円プラスで推移した。

中身を見ると次期繰越金で約 4 万円減、終身会費繰越金で約 11 万増であった。

終身会費は順調に増えているが、支部年会費は伸びていないことが要因である。

現在は財政的な問題はないが、今後会員の高齢化が進み、年年の終身会費納入者が減少すると、徐々に財政的に厳しくなろう。

【収入＝支部支援金＋年会費＋雑】

594,016 円と対予算約 6 千円のマイナスとなった。

内訳を見ると本部からの支援金は予算通りの 30 万円で、支部年会費が 284,000 円と対予算でマイナス 1 万 6 千円。予算外の寄付金が 1 万円あった。

【支出】（ ）内は予算額

実績 633,954 円（635,000 円）と予算内運営（マイナス約千円）できた。

費目別にみて予算と実績の乖離の大きなものと理由は以下の通り。

印刷費 33,961 円（10,000）：プリンターが故障したために、新たに購入したためである。

会議費 73,000 円（30,000）：予算作成時には計画していなかった、神戸大学同窓会組織の役員への手当を新設し、4 万円（3 名分）支給したためである。

交通費 173,395 円（150,000）：深江への出張費で延べ 6 名を計画し、実績も 6 名の出張となった。1 回一人当たり 25,000 円の予算が厳しすぎたのが原因である。

理事会費 3,000 円（50,000）：会議を「支部便り」の発送作業と併せて行い、交通費、会議室費用を削減したため。

通信発送費 184,145 円（250,000）：宅急便、郵便代の値上げを考慮して予算を 2 万円増額していたが、「支部便り」発送費用が前年と同じ額で発送できた。本年度は、値上げされる可能性が高い。

【支部年会費納入人数】

実績は 135 名が納めた。内訳をみると年会費納入者が 114 名、終身会費納入者が 21 名（予算では 10 名を計画）。

昨年末までの終身会員は 100 名、今年度 21 名増え、累計 121 名となった。

従って繰入人数を加えた会費納入人数は、235 名となる。（年会費納入者：114 名＋終身会員：121 名）

今年度で終身会員の方が多数（約 51%）となり、金額ベースでも今年度支部年会費収入 284,000 円に対し約 35%が終身会費からの繰入である。

（121 名分の終身会費の今年度末合計額は 987,000 円となり、この 1 割相当額 99,000 円を年会費へ繰り入れた。）

尚、納入戴いた年度で会計処理していますが、複数年度分を納入戴いた既納の方が今年度分を含め 75 名います。金額にして 264,000 円に上り繰越金に含まれています。

以上

海神会関東支部				
平成29年度収支決算報告(案)				会計期間:H29.4.1~H30.3.31
収 入 の 部				単位:円
項 目	予算額	決算額	差異	備 考
前年度より繰り越し	1,086,991	1,086,991	-	
支部運営支援費	300,000	300,000	-	本部より
支部年会費	300,000	284,000	△ 16,000	納付者135名(内訳 終身会員:21名) 年会費185,000円+3月末終身会費の1/10 99,000円繰入(累計終身会員121名:当年度の21名含む)
終身会費	790,000	888,000	98,000	3月末終身会費の1/10を支部年会費へ繰入後の次年度繰越
雑収入		10,016	10,016	預金利息:16円+総会への寄付金:10,000円
合 計 (A)	2,476,991	2,569,007	92,016	
支 出 の 部				
項 目	予算額	決算額	差異	備 考
A 事業費				
総会費	30,000	31,700	1,700	六甲クラブ会場費、懇親会費超過の飲食費補填
理事会費	50,000	3,000	△ 47,000	幹事会費
会報発行費	100,000	119,765	19,765	関東支部便り1,200部x2回印刷費、寄稿謝礼図書券等
B 運営費				
印刷費	10,000	33,961	23,961	総会資料、用紙、プリンター-インク等 プリンター故障による買換え費用:14,380円
通信発送費	250,000	184,145	△ 65,855	切手、ハガキ、郵送料、支部便り約1,000部x2回発送の宅急便費等
会議費	30,000	73,000	43,000	六甲クラブ理事会、学友会役員会等出張費、神戸大学同窓会組織役員手当:40,000円(3名分)
交通費	150,000	173,395	23,395	本部総会・評議会 出張費計6名
雑費	15,000	14,988	△ 12	振込手数料(郵便局、銀行)
C 維持費				
学友会東京支部年会費	-	-	0	
小 計 (B)	635,000	633,954	△ 1,046	
予備費 (A)-(B)	1,841,991			
次期繰り越し金(年会費等)	1,031,991	1,047,053	16,030	
終身会費繰越金	(790,000)	888,000	45,000	
合 計	2,476,991	2,569,007	92,016	
.....				
海神会関東支部				
平成29年度 監査報告書				
平成29年度決算に関し、会計担当より提出あった帳簿類、現預金類を精査した結果、正確かつ妥当であると確認しましたことをご報告いたします。				
平成 30 年 4 月 11 日	監事	上野 俊雄		
	監事	中村 紳也		

3.平成 30 年度活動計画案・予算案

3.1 平成 30 年度活動計画案

- 3.1.1 総会の案内状（約 1,050 通）の袋詰めを兼ねた幹事会の開催、
- 3.1.2 海神会本部 理事会・総会（6 月 9 日）
- 3.1.3 理事会・定時総会・懇親会の開催（7 月 3 日）
- 3.1.4 第 3 回関東支部懇親会&ゴルフコンペ（10 月 14 日・15 日）
- 3.1.5 海洋会に協力、海洋会ボランティアクラブ、海洋会誌「海洋」の封書詰め発送作業
- 3.1.6 神戸大学東京六甲クラブ行事に協力、
- 3.1.7 関東支部便り、総会の案内の No.16、My 近況を載せた No.17、の発行、
- 3.1.8 関東支部メール便「神戸大学学友会事務局からのお知らせ」を添付の継続（1 回/月）
- 3.1.9 海神会本部 評議会（10 月 27 日）
- 3.1.10 事務局業務

3.2 平成 30 年度予算案

過去数年の収入、支出の実績をベースに、現実的な予算とする。

収入は終身会費の繰り越しが増えているので何とかなっているが、実態は収入 60 万円

（支部支援金 30 万円＋会費収入 30 万円弱）に対し支出は 64 万円弱と約 4 万円の収入不足が続いている。収入に見合った支出を予算とすべきだが、活動レベルを維持し、支部年会費の収入増を図ることとし、以下の予算案とした。

【収入】前年度並みで計画

本部からの支援金 300,000 円（昨年と同じ）

支部年会費 300,000 円（昨年と同じ）

終身会員は 16 期生 21 名の 1/3 の 7 名が新規になるとして計算

終身会費 862,000 円（888,000 円）

昨年は 21 名が新規に終身会員になったが、今年度は 7 名と減少の見込みなので、繰越金も減る予算となる。

【支出】前年実績を考慮して、少し見直した。（ ）内数字は前年度予算額。

総額 645,000 円（635,000 円）と前年比 1 万円のプラスの予算とする。

見直した費目とその理由など

会報発行費：120,000 円（100,000 円）；前年実績 119,765 円に合わせた。これは主に寄稿者への謝礼（図書券）の増加分である。

通信発送費：230,000 円（250,000 円）；前年実績 184,145 円より増やしたのは、今年こそ佐川急便への支払いが値上げされるとの見込みで増額した。

会議費：70,000 円（30,000 円）；会議費 30,000 円＋神戸大学同窓会組織役員手当 40,000 円を見込んだ。前年実績 73,000 円。

交通費：160,000 円（150,000 円）；本部への出張延べ 6 名を計画。前年実績 173,395 円

以上の収支予算の結果、H29 年度と比べて次期繰越金（支部年会費等）は、45,000 円マイナスの 1,002,053 円となり、終身会費繰越金は、26,000 円マイナスの 862,000 円となる見込みである。その結果累積収支差額は 71,000 円マイナスの 1,864,053 円の見込みである。

以上

海神会関東支部				
平成30年度収支予算(案)				会計期間:H30.4.1~H31.3.31
収 入 の 部				単位:円
項 目	29年度予算額	29年度決算額	30年度予算額	備 考
前年度より繰り越し	1,086,991	1,086,991	1,047,053	
支部運営支援費	300,000	300,000	300,000	本部より
支部年会費	300,000	284,000	300,000	年会費納入者180名、終身会費納入者7名を見込む
終身会費	790,000	888,000	862,000	期末終身会費の1/10を年会費へ繰入済み
雑収入		10,016		預金利息等
合 計 (A)	2,476,991	2,569,007	2,509,053	
支 出 の 部				
項 目	29年度予算額	29年度決算額	30年度予算額	備 考
A 事業費				
総会費	30,000	31,700	30,000	六甲クラブ会場費、懇親会補助金
理事会費	50,000	3,000	10,000	幹事会費
会報発行費	100,000	119,765	120,000	支部便り印刷費(2回/年)、寄稿謝礼図書券等
支援費	-	-	-	
B 運営費				
印刷費	10,000	33,961	10,000	総会資料印刷費、封筒、用紙、プリンターインク等
通信発送費	250,000	184,145	230,000	切手、ハガキ、郵送料、宅急便費等(支部便り2回/年)
会議費	30,000	73,000	70,000	諸会議等参加費(主に六甲クラブ関係)、手当
交通費	150,000	173,395	160,000	本部会議等出席 延6名
雑費	15,000	14,988	15,000	振込手数料等
C 維持費				
学友会東京支部年会費	-	-	-	
小 計 (B)	635,000	633,954	645,000	
予備費 (A)-(B)	1,841,991		1,864,053	
次期繰り越し金(年会費等)	1,031,991	1,047,053	1,002,053	
終身会費繰越金	(790,000)	888,000	862,000	
合 計	2,476,991	2,569,007	2,509,053	

4. 関東支部ゴルフコンペについて

海神会関東支部の宿泊懇親会及び第 3 回ゴルフコンペに関し、下記の通り予定しております。
 まだ先の話ですが、返信はがきに参加希望の有または無に○印をお願いします。
 参加を希望された方には 8 月中旬頃にご案内いたします。

記

* 10 月 14 日 (日) 伊豆長岡温泉 「伊古奈荘」 宿泊・宴会

1 泊 2 食 ¥12,000+宴会飲酒代

〒410-2201 静岡県伊豆の国市古奈 2 4 3-3

TEL ; 055-948-0868

* 10 月 15 日 (月) 富士箱根カントリークラブ

OUT 08:33~5 組 20 名

プレー費約 ¥9,200+会費 ¥3,000

以上

世話役 N11 期 竹橋由進

5. 神戸大学学友会東京支部・神戸大学東京六甲クラブ関係

会長の挨拶から「会員おひとりお一人の当クラブへの愛着と同窓生としての一層の連携が、
 結果として新たな会員勧誘の導火線になるものと確信しています。どうぞよろしく願ひい

たします。クラブの雰囲気作りにも一層意を用い若い人たちからも愛されるクラブ作りを心がけていきたいと思います。

昨今大学を取巻く環境も一変し、厳しさを増しています。我が神戸大学も例外ではありません。OB、OG としては母校の現況、行く末について気掛りになるニュースも散見される昨今です。このような状況のもとで、当クラブと大学とのコミュニケーションを一層密にして大学への期待、声援の思いを直接伝える機会を増やしたと思います。大学側も当クラブを通じて経済社会の新しい潮流、ニーズなどを肌で感じていただければと願っています。

“ちょっと寄ってみよう”そんな気持ちにさせるクラブ運営をしたいと願っています。」

1. 海神会からは N7 森本顧問が副理事長に、E13 田中事務局長が理事に、E15 道浦支部長が代議員に就いています。
2. 代議員総会・理事会が 5/25:、理事会・学友役員会が 5/7、6/8、9/7、12/7、3/8 に開催します。
3. 7 月 20 日（金）にビアパーティー、8 月 2 日（木）の木曜会では、武田学長の講演会、12 月 21 日（金）忘年会、1 月 12 日（土）学長を交えて新年互礼会などが開催されます。
4. 囲碁会、書道会、合唱団、俳句会、ゴルフ同好会などのサークルの他に、卒業年度による同期会、若手の会などもありますので、積極的な参加をお願いします。

会員往来（事務局判明分）

1. 新たに登録された方々

N11 花田 兵六 BN45 奥山伊織

2. 関東以外の地へ移られた方

N29 大六 剛：神戸

3. 物故者

次の方が逝去されました。ご遺徳を偲び慎んでご冥福をお祈りいたします。

N11 立屋敷 靖 2018 年 1 月に逝去 同期の方より

N13 荒木 茂夫 2017 年 10 月 31 日に逝去 故人のたつての遺言もあり、家族、近親者のみでの家族葬でお見送りしました。

N08 大河原 豊重 「関東支部便り」をお送り戴きまして有難うございました。実は大河原 豊重は 2017 年 9 月 8 日に永眠致しました。生前はお世話になり有難うございました。皆様にどうぞ宜しくお伝え下さいませ。（奥様）

E10 八田 威彦 夫、八田 威彦は 2017 年 4 月に永眠いたしました。生前、主人より海神会は退会したと伺っていましたが、未だに”海神会関東支部便り”が送られてきます。宜しくご配慮をお願いします。（奥様）

E06 上村 建二 2017 年 1 月 16 日に逝去 海洋 3 2018MAR. No.906 より

4. 不達者

次の方々が残念ながら不達となりました。ご存知の方はご連絡くださいます様をお願いします。

A05 伊東 智道 A11 岡崎 一正 K09 森本 英史 K10 福原 昌三 N05 西端 晟
N06 安東 哲三 N16 市森 清隆 N18 青戸 久明 N23 寺田 耕一 N24 川満 清栄
N30 井上 泰彦 N31 山村 勉 BN039 福島 三男 BN046 林 純治
E08 加地 康弘 E15 吉川 進 E24 新保 雅俊 E26 長谷川 公三 E26 吉田 悟
E35 横山 邦紹 08W 影山 丈真 08W 福井 優也 09W 瀧林 佑哉

会員の広場 “Bridge”

第 2 回 ゴルフコンペ報告

平成 30 年 3 月 30 日(金)、「佐倉カントリー倶楽部」(千葉県佐倉市飯田)で第 2 回海神会関東支部ゴルフコンペを行いました。

2 期生から 24 期生までの方々、16 名(4 組)の参加がありました。コンペは、快晴の中、第 1 組よりスタートしていきました。とりわけ、各ホール桜が満開となっており、心浮き立つ 1 日となりました。ゴルフ終了後、和気あいあいとした成績発表と打ち上げ会食が行われました。

今回の優勝は Gross 94・Net72.4 の富久尾義隆さん(N12)、準優勝は Best Gross 86 の竹橋由進さん(N11)、3 位は吉田伏見男さん(E14)、BB は河原好功さん(N7)でした。優勝者の挨拶で「最近、週一プロコーチのレッスンを受けている。これまでの我流ゴルフを少しずつ脱却中である。今年、アイルランド島を巡り、ゴルフ三昧の旅を計画している。今から楽しみで、楽しみで！」とご披露された。羨ましい限りである。今回、若手(?)の参加者に挨拶に立ってもらい、9 位の佐田昌弘さん(E20)、6 位の小寺俊秋さん(N21)、5 位の中野治徳さん(N23)、10 位の稲葉潔さん(N24)より、「初参加でしたが、とても楽しいラウンドでした。是非、次回も参加したいです」と挨拶があった。今後、竹橋先輩のお手伝いが少しでもできればと思った次第です。

打ち上げ会を済ませ、倶楽部の食堂横のベランダに全員集合し写真撮影を行いました。全員の笑顔、笑顔をご覧下さい。

次回の 10 月 14 日(日)伊古奈荘(<http://www.ikonaso.com/>)宿泊・懇親会、15 日(月)富士箱根カントリークラブも、元気にお会いすすることを約して、お開きとなりました。

(佐田 昌弘(E20)記)



コンペ前の写真



打ち上げ会後の記念写真



打ち上げ会のスナップ

第 1 回ゴルフコンペ報告

順延となっていた第 1 回の海神会関東支部ゴルフコンペが、漸くに 12 月 1 日(金)に神奈川県秦野カントリークラブで 3 組 11 名の参加で開催されました。

80 歳を超える塩崎さん、廣瀬さん、大谷さん、河原さんを含め、70 歳代が大半の老齡者コンペとなりましたが、航機合同の第 1 回同窓会コンペという事でも有り、埼玉・茨城・千葉等の遠方からのご参加(塩崎様は当日間に合わずという事で秦野駅前に前泊)も有り、足腰の不自由や体力の衰えをものともせずにご参加を戴き、有り難く感謝いたします。

心配された天候も朝方は少し肌寒い気温でしたが、雲も次第に薄れ日差しも戻り、後半は暖かさも感じられるゴルフ日和となりました。



第 1 回の成績は、高齡者コンペという事でも有り、スコアーは 80 台 2 名、90 台 2 名、その他は 100 台と、コースの難しさにも苦戦を余儀なくされましたが、優勝:竹橋さん、準優勝:井手さん、3 位:井崎さん、7 位:富久尾さん、BB:廣瀬さんでした。

ベストグロス阿部さんと竹橋さんの 88 で、図らずも過去にシンガポール勤務を経験し、ゴルフ回数も多い 2 人で分けることとなりました。(阿部さんの飛距離には驚嘆です)

今回のコンペで特筆すべきは、交通渋滞に会い、スタート直前にゴルフ場に到着され、集合写真の撮影にも間に合わなかった森本さんが、スタートホールのニアピンホールで、素振り練習も殆どせず第 1 打を打たれ、見事ワンオンのニアピン賞をゲットされた事です。

スタート前に十分体をほぐす柔軟体操や、素振りやパットの練習をする必要は無用とも思わせる奇跡のショットでした。

注)今回当初予定していた経費補助のための罰則ゲームやオネストジョンは、皆様に不評のため中止致しました。

第 1 回ゴルフコンペ出席者 11 名(敬称略)

塩崎雅敏(E4) 廣瀬斉(N4) 大谷浩二(N6) 河原好功(N7) 森本靖之(N7)

井崎宜昭(E11) 竹橋由進(N11) 大西典一(N12) 富久尾義孝(N12) 井手祐之(E14)

阿部昭彦(N15)

次回以降に、ゴルフをされない方も含めた懇親会も兼ね、箱根等での 1 泊ゴルフも計画したいと思っています。

〈世話役:N11 竹橋由進 記〉

∞会員の窓∞

20,170TEU 積みコンテナ船「MOL TRIUMPH」乗船記

神戸商船大学 45 期 (BN45) 奥山伊織と申します。

今回、超大型コンテナ船「MOL TRIUMPH」(エム・オー・エル・トライアンフ)に一等航海士として乗船した経験談を寄稿する機会をいただきましたので、紙面をお借りして個人的乗船記をつらつらと書き連ねております。乱筆乱文になっておりますこと、ご容赦をお願いします。

1. 本船概要

まずは、本船のスペックについて簡単にご紹介します。

2017 年 3 月に就航した新造船「MOL TRIUMPH」は、20 フィートコンテナを 20,000 個積むことができる超大型船であり、世界最大のコンテナ船です。近年コンテナ船のサイズアップが著しく、十数年前まで大型船の主流船型であった 8,000 個積みコンテナ船と比べてみると、どれほど急激にサイズが膨らんだかお分かりいただけると思います。

「商船三井のエコセーリングにより、14,000TEU 型との比較でコンテナ 1 個当たり 25～30%の CO₂ 排出量削減を実現」

<8,000TEU vs 20,000TEU> (TEU=20 フィートコンテナが何個積めるかを表す単位)

	8,000TEU	20,000TEU
全長	320m	400m
幅	46m	59m
最大喫水	14.5m	16.0m
総トン数	88,000ton	210,700ton
オンデッキ最大	8 段積み	11 段積み
カーゴホールド	9 段積み	12 段積み
リーファーコンテナ最大積数	630 本	1,500 本



写真1. マルタ沖での空撮

上の写真でお分かりの通り、船橋が本船中央より前方に位置し、視界と船体強度を確保するデザインとなっています。

2. 艀装員着任～命名式～デリバリー

2017 年 2 月 27 日、艀装員先発隊 4 名 (船機長、一航機士) が韓国巨齊島に位置する建造ドックサムソン重工 (Samsung Heavy Industrial:SHI) に到着しました。初めて本船の威容を目の当たりにし

たとき、どこまでも続く船体と、遥か上方に位置する上甲板位置の高さに艤装員一同絶句しました。

正直この船を操船するのは無理ではないか、と不安に陥ったことを今でもまざまざと思い出します。胸に不安を抱えながらショアラダーの階段をひたすら上って本船上に乗り込みましたが、オンデッキの通路が両側に果てしなく続いており、右と左どちらがオモテか？トモか？判別できませんでした。眩暈を覚えながら居住区に入り、とにかく船橋まで上がり本船全体を見渡すことが出来たところで、ようやくざわついていた気持ちが落ち着きました。船橋に一度立てば、自然と仕事モードのスイッチが入るのは航海士ならではの感覚でしょうか、そこからはやるしかないと思えることができました。



写真 2. 本船サイズに絶句する艤装員



写真 3. 本船右舷オモテより

それからの艤装期間中は、毎日広大な本船上の現場を隅々まで見て回り、本船の構造・機器・設備に触れる毎に本船への愛着が増していくことになりました。

<命名式>

艤装員着任から 2 週間が経った 3 月 15 日、命名式が執り行われました。船主、建造ヤードなど関係者に加え多数のメディアが一堂に介し、華々しく船名「MOL TRIUMPH」がお披露目されました。

各界お歴々のスピーチを拝聴し、メディアが熱心に取材する様子を見るにつけ、注目度の高い船であることを実感した日でした。



写真 4. 命名式にて艤装員集合(右から 3 人目が筆者)

<デリバリー>

2017 年 3 月 27 日、いよいよドックから引き渡される日となりました。引き渡しの際は特に何のセレモニーもなく、本船監督から引き渡し書類にサインしてきたと告げられただけで、少し拍子抜けしました。しかしながら、この瞬間から本船運航・保守整備に関して乗組員への責任が発生することとなり、これまでと違う心構えが必要だと本船クルーに伝えるとともに、何より自分自身に言い聞かせました。

3. 処女航海

3 月 30 日、ドック岸壁から船体が静かに離れ、メインエンジンが順調に始動しゆっくりと前進を始めました。まずは最初の積地である天津新港に向かって航海開始です。

本船は中国と欧州を結ぶ航路に投入され、一航海 84 日間で以下の港を回ります。

＜寄港地＞

天津 - 大連 - 青島 - 上海 - 寧波 - 香港 - 塩田 - シンガポール - スエズ運河 - タンジール - サザンブトン - ハンブルグ - ロッテルダム - ルアーブル - タンジール - スエズ運河 - ジュベラアリ - 香港 - 青島 - 天津

ご存知の方も多いと思いますが、中国沿岸は多数の漁船・内航船が縦横無尽に走り回る超輻輳海域であるうえ、春先は視界が悪いので航海中は極度の緊張を強いられます。天津新港が位置する渤海湾内も、当然のように航路を塞ぐ漁船群がそこそこに操業しており、視界不良の中レーダーとにらめっこしながら巨大な船体を右へ左へ避航操船を繰り返しながら走りました。冷汗が出る思いの連続でしたが、そのお陰で本船の操縦性能を早い段階で掴むことができたのは良かったかもしれません。

巨斉島ドックを出てから二日後、4 月 1 日に天津新港沖に到着しましたが、バース混みのため着岸できず、錨泊にて待つこととなりました。錨地は霧が深く、すぐ隣の錨泊船すら見えません。ほんの数か月前、この錨地で霧に紛れて錨泊船から燃料油を抜き取るという事件が発生しており、デッキ上の見回りを強化しながらの錨泊でした。中国諸港は一時も気が抜けません。

錨地着から二日後の 4 月 3 日、まだ錨地では視界不良が続いていましたが、岸壁付近は霧が晴れてきたとのことでパイロット乗船地点までアプローチ開始するよう代理店から連絡があり、ポートコントロールに確認の上、本船は初入港作業に向け動き出しました。

レーダーにて本船に近づく小さな輝点を捕捉し、VHF で交信、本船の水先人が乗ったボートであることを確認しました。距離 300m ほどでやっと視認できたボートは、本船名を確かめるようにオモテから右舷側を通り過ぎ、トモを回ってから左舷側に設置した乗り込み梯子に接触、2 名の水先人が乗船しました。船橋についた水先人は、両名とも興奮した様子で本船を嚮導できることを喜んでいました。

実は、本船のパイロット乗り込み口は船体中央に位置し、船橋までの道のりは長く、どんなに急いでも 5 分はかかります。船長としては、入港に際しては水先人と一刻も早く情報を交換したいと考えるので、何故もっと居住区近くに乗り込み口を作ってくれなかったのか、と常々ぼやいていたのを覚えています。

中国主要港では数年前から既に 350m を超える巨大コンテナ船の寄港が始まっており、水先人は 400m を誇る本船の大きさに驚きながらも慣れた様子で慎重に着岸操船を行い、問題なく天津新港に着棧することができました。初寄港ということで荷役が開始される前にセレモニー及び本船見学が実施されました。多くの人に歓迎してもらい、寄港記念品までいただき、少し誇らしい気分になりました。



写真 5. 初寄港地である天津新港



写真 6. 初寄港記念品の数々

この後、どこの寄港地でも歓迎・記念品贈呈・本船見学というコースが準備されており、停泊中は目まぐるしく過ぎることになります。そんな忙しい日々の中で、一航士として一番気を使っていたのが貨物に関わることです。たとえ見学者がごった返し、アテンドしなければならない状況でも、荷役作業は気が抜けません。

シンガポールを出港するとき、本船上には 10,000 個以上のコンテナ(約 17,500TEU)を積み満船状

態になることが事前に知らされており、自分にとってこれだけの積量は未知の領域でした。最適な積み付けがされているのか、荷役プランに対して相当集中して確認を行い、陸上の積み付けプランニング担当者と幾度となく連絡を取り合いました。

特に数百個を超えるリーファーコンテナ、数限りない種類の危険品コンテナの積位置は 1 本 1 本貨物情報をお確かめ、適切な位置に積まれることを確認していきました。

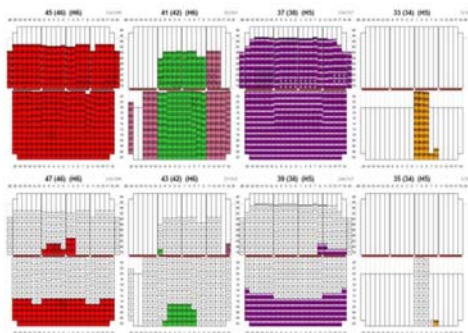


写真 7. 積み付けプラン確認



写真 8. デッキ上に積みあがるコンテナ

荷役作業中は、当直航海士、甲板上荷役チェック 2 名、舷門当直者の計 4 名で当直を回していきますが、これは従来のコンテナ船と変わらない人数であり、正直ガントリークレーンの 7 基以上が同時に荷役作業を行うと監視が非常に困難でした。

特殊コンテナの積場所やリーファーコンテナの作動確認、コンテナのラッシング確認、ハッチカバーの開閉等々、外せないポイントを効率よく確実に監視できるよう、各乗組員が知恵を振り絞って工夫を出し合い、入港前の打ち合わせを入念に実施しました。本船の真のチームワークが試される場であったと思います。

お陰様で、無事全てのコンテナを問題なく積み取ることができ、シンガポールを満船にて出港した後の達成感は何物にも代えがたい瞬間でした。

連続寄港に一区切りがつき、シンガポール・マラッカ海峡を抜けたところで、ようやく船内に落ち着いた雰囲気に戻りました。中々手を付けられずにいた保守整備作業計画や書類作業、新しい機器操作の手順書作成、操練等を行う時間が取れるようになりました。穏やかな航海が続いたので、船橋ウイングで船内パーティーを開いてリラックスする時間を過ごすことができたのは幸いでした。



写真 9. 満船状態でスエズ運河へ向かう本船



写真 10. インド洋にてウイングに全員集合

紙面が残り少なく書くことができないのですが、スエズ運河通峡中のインタビュー取材、サザンプトンからハンブルグまでドイツ TV 局クルーによる撮影、本船を見るためにエルベ川沿岸に集まった多くの人々による歓迎など、船乗りになって初めて経験することの連続でした。様々なトラブルもありましたが、これまでの船乗り人生で間違いなく一番濃密な時間を過ごすことができたのが本船での日々でした。

これからも本船 MOL TRIUMPH の活躍と安全運航を祈りつつ、この文を読んでいた方々に

少しでもコンテナ船輸送について興味を持っていただければ幸いです。

以下の質問に気軽に回答戴きました。

Q1. エンジン仕様(出力、ディーゼル or タービン、出力軸数など、)？

A 主機 11 気筒ディーゼル 一軸 最大出力 59,250kW (約 80,600 馬力)

発電機 4,300kW × 720rpm 4 基

Q2. 運航速度？

A 最大速力 22.5kts、通常 20kts

Q3. コンテナにも色々種類があり、危険品コンテナ、特殊コンテナの区別はコンテナの色で識別するのですか？

A 特殊コンテナの区別はコンテナ色での識別はできません。

特殊貨物のリストが本船上に積載される前に届くので、そのリストに記載されるコンテナ固有の番号(コンテナナンバー)にて照合します。

特殊コンテナについては、主に以下の物が挙げられます。

①危険品が入っているコンテナ

国際規則に従い危険品の種類を示すプラカードがコンテナ側面に貼りつけられており、容易に判別ができます。

危険品プラカードにつきましては、新日本検定協会 HP に分かりやすく掲載されていますので、ご参照をお願いします。<http://sklabel.online-store.jp/i-shop/top.asp>

②リーファーコンテナ(通称レフコン)

+25℃から-25℃の範囲で温度調整が可能であり、主に冷凍・冷蔵貨物(主に肉・魚介類・果物・野菜などの生鮮食品、フィルム、化成品など)や薬品などの輸送に使用されてます。

コンテナに冷凍機がついており、本船上に積み込まれたあと、本船上電源コンセントにケーブルを差し込んで冷凍機を作動させます。

③オーブントップコンテナ、フラットラックコンテナ

コンテナサイズより寸法が大きい貨物を積むためのコンテナで、積載場所が限定されるものです。

以下 HP に分かりやすい写真が載せられております。

<http://www.tanakapk.co.jp/cgi-bin/tanakapk/siteup.cgi?category=3&page=1>

Q4. 写真 10 では多人数の方が乗り組んでいます、実際も同じでしょうか？

A 実際の本船乗組員数は 23～25 名です。

Q5. 港によって異なるでしょうが、20,000TEU の荷積み、荷下ろしの時間はどの位でしょうか？

A 積み揚げ荷役が 2,000 本くらいであれば、停泊時間は 15～18 時間程度でした。欧州サイドで大量の積み揚げ(約 6,000 本)の時は 2 日半程度停泊していました。

Q6. デッキ上に堆くコンテナを積んでいます、満載時の復元力は、傾きが何度まで許容できるのですか？

A 通常 25～30 度傾ぎがあっても大丈夫であるよう、積み付け計算機で確認しながらコンテナを積んでもらいます。

深江の鐘

橋本 武名誉教授が教育研究功勞により 2017 年 11 月秋の叙勲で“瑞宝中綬章”を受けられました。遅れ馳せながら、お祝い申し上げます。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

海事科学研究科/海事科学部 URL <http://www.maritime.kobe-u.ac.jp/> から

創基 100 周年記念事業募金

■ 寄附状況(平成 30 年 3 月 5 日現在) 寄附総件数 378 件 寄附総額 147,853,311 円
温かいご支援有難うございました。

*** **

- 2018.03.30 シンポジウム『マリタイム・ガバナンスへの日本の貢献を考える』を開催しました
- 2018.03.27 「神戸市内の企業と神戸大学大学院海事科学研究科との交流会」を開催しました
- 2018.03.14 段 智久教授がエルセビア社の雑誌 Energy より査読に関する顕彰を受けました
- 2018.03.09 第 11 回 海事防災研究会の様子が NHK で紹介されました
- 2018.03.06 堂前光司さん(海事科学研究科博士課程後期課程 3 年/日本学術振興会特別研究員)
が「平成 29 年度 九州運輸振興センター 懸賞「提案・提言」論文 優秀賞」を受賞しました
- 2018.02.27 神戸大学海事科学部 創基 100 周年「特別授業」が開催されました
- 2018.02.16「第 11 回 海事防災研究会のご案内(3 月 5 日)」を掲載しました
- 2018.02.14 シンポジウム「マリタイム・ガバナンスへの日本の貢献を考える」を開催します(3 月 19 日)
- 2018.02.09 段教授がエルセビア社の雑誌 Energy より"アウトスタンディングレビューア"の表彰を受けました
- 2018.02.07 シンポジウム「フラッグシップ研究の創出に向けて」を開催しました
- 2018.02.05 シンポジウム「原子力災害時の船舶の活用」を開催します(3 月 16 日(金)13 時 30 分～)
- 2018.01.16 小谷通泰教授 最終講義のご案内(3 月 14 日)
- 2018.01.16 福岡俊道教授 最終講義のご案内(2 月 7 日)
- 2018.01.16 嶋田博行教授 最終講義のご案内(1 月 31 日)
- 2018.01.15 「第 32 回固体飛跡検出器研究会」を開催します(3 月 29・30 日)
- 2018.01.05 グローバル輸送科学講座 古莊教授、西村准教授が「科学研究費助成事業(科研費)」審査委員の表彰を受けました
- 2017.12.25 福岡教授が NHK のトラックの車輪脱落事故に関するニュースで電話インタビューに出演されました
- 2017.12.08 山内知也教授の「生レポート」が国立大学 55 工学系学部ホームページに掲載されました
- 2017.12.06 クリストファー・ゴメス准教授にインドネシアのガジャ・マダ大学から名誉職として称号が授与されました

事務局からのお知らせとお願い

関東支部運営の中で定例総会の他に “関東支部局便り” の年 2 回発行等により会員相互の交流・親睦を図っており、これらの経費には皆様からの支部年会費（千円／年）を充当しています。同封の払込取扱票に必要事項を記入して “ゆうちょ銀行” で今年度の年会費を振替して下さいますようお願いいたします。名称が変わっても、深江に学ぶ後輩たちのために、**関東支部活動もご支援下さいますよう重ねてお願い致します。**

尚、今年度以降の支部年会費を払込み戴いた方には、払込取扱票は同封していませんのでご了承ください。来年度、再来年度と複数年度を既納付戴いた支部年会費を封筒宛先の下の学籍番号に続く英小文字で表示しています。英小文字 m は本年度（平成 30 年度）、n は来年度、o は再来年度…と順次表しています。なお、**終身会費を納入頂いた方には「寿」**を付記しておりますので、ご確認願います。

また、郵便物（メール便など含む）が**不達**となった方には案内・関東支部便りなどの発送を中止しています。ご存知の方は連絡願います

『会員（関東支部）の名簿は、関東支部に連絡があれば都度訂正していますが、名簿からの漏れ、不達を避けるためにも、各クラス会の幹事役の方、同窓生で”海神会便り””関東支部便り”を受け取っていない方をご存じの方は事務局に連絡下さいますようお願いいたします。なお、会員名簿は原則非公開であることをご了承ください』

海神会関東支部（神戸大学海事科学部同窓会関東支部）

事務局 （議案書の作成、会員動向の整理、総会の案内などの通信業務、本部との連絡など）

住所：〒373-0817 群馬県太田市飯塚町 1084-36

田中 貴雄 （海神会関東支部 理事・事務局長）